

部外秘	書写
-----	----

項目	観点	教科書名				
		新しい 書写(2・東書)	みんなと学ぶ 小学校書写(11・学図)	小学 書写(17・教出)	書写(38・光村)	小学書写(116・日文)
1 学習指導要領の教科の 目標を達成するために 取り扱う内容の選択に ついて	(1) 1・2学年では、点 画の書き方や文字の 形、筆順などに注意しな がら、正しく書くことが できるようにするために、 どのように配慮されてい るか。	○色分けや矢印による示し方だけ でなく、始筆に☆マーク、終筆に○ マークを示すことで、正しく書くこ とができるよう配慮されている。 ○「しよしゃのかぎ」を掲載し、点画 の書き方に注意することができる よう配慮されている。 ○水書用紙を使うことで、「とめ・ はらい」を意識し、正しくかけるよ う配慮されている。 ○筆順の決まりを3つに分けて整 理している。 ○書き順を色別に表している。1マ スを4つの部屋に分けて書くよう になっている。	○点画の大事なところを確かめて かけたら巻末のシールを貼ること で、正しく書けるよう配慮されて いる。 ○筆順を数字や色別で表してい る。1マスを4つの部屋に分けて書 くようになっている。 ○字形を外形で示している。 ○筆順を6つの原則に分けて整理 している。 ●点画の拡大図がなく、色分けや 矢印等が少ない。低学年にとっ ては正しく書くことが難しいと思わ れる。	○色分けや矢印による示し方だけ でなく、「とめ」や「はね」を赤丸で 囲み、イラストで点画の書き方に 注目させ、正しく書けるよう配慮さ れている。 ○水書シートを使うことで、文字を 書くときの力の入れ方を知り、正し く書くことができるよう配慮されて いる。 ○数字で筆順を表し、筆順の原則 を4つ示している。 ○途中から1マスを分けている点 線がなくなる。	○色分けによる示し方だけでなく、 矢印の形状に着目させ、点画の書 き方や筆順に注意して書けるよう 配慮されている。 ○水書シートを使うことで、「とめ・ はね・はらい」を意識し、点画の始 筆から終筆までをきちんと書ける よう工夫されている。 ○数字で筆順を示している。1マ スを4つの部屋に分けて書くよう になっている。 ○字形を外形で示している。 ○筆順を4つのきまりに整理して いる。	○色分けによる示し方だけでなく、 矢印の形状に注目させ、点画の書 き方や筆順に注意して書けるよう 配慮されている。 ○水書シートを使うことで、画の終 わりや途中の書き方を練習するこ とができるよう工夫されている。 ○筆順は一部示している。途中か ら1マスを分けている点線がなくな る。 ○筆順の例を2つとまちがいがやす い書き順の例が示されている。
	(2) 3・4学年では、文 字の組み立て方を理解 し、漢字や仮名の大き さ、配列に注意して形を 整えて書くことができる ようにするために、どの ような配慮がされている か。	○朱淡2色の淡墨図写真やイラスト に加え、とん、すう、ぴたっという 擬音語を用いて始筆・送筆・終筆 のリズムを感覚的にとらえられる よう配慮されている。 ○始筆、送筆、終筆のそれぞれの 穂先の動きが分かるように、朱墨 を使ったお手本を多用している。 ○「書写のカギ」として、文字のバ ランスや配列、書き方のポイントに 注意して書けるよう配慮されてい る。	○始筆、送筆、終筆のそれぞれの 穂先の動きが分かるように、朱墨 を使ったお手本が使用されてい る。 ○中心線を入れることで、文字の 組み立てやバランスに気を付けて 書けるよう配慮されている。 ●始筆、送筆、終筆のそれぞれの 筆圧が分かるような配慮が不足し ている。	○筆圧について、写真やイラスト に加えて、強弱を記号、数字を用 いて表し、感覚的にとらえられるよ う配慮されている。 ○「とん、すうっ、ぴたっ」という擬 音語を用いて、始筆、送筆、終筆 のリズムを感覚的にとらえられる よう配慮している。 ○学習のめあてが明示され、「考 えよう」「ここが大切」という項目が ある。	○文字の組み立てを理解するた めに、部首と元の文字を朱書きし たものを重ねて示すことで、違い に気付かせ、文字の形を整えて書 くことができるよう配慮されてい る。	○朱淡2色の淡墨図写真やイラスト に加え、ぐうっ、とん、ちょん、と いう擬音語を用いて筆圧の強弱を 感覚的にとらえられるよう配慮さ れている。 ○中心線を入れることで、文字の 組み立てやバランスに気を付けて 書けるよう配慮されている。
	(3) 5・6学年では、文 字の大きさや配列、書く 速さや穂先の動きを意 識して書くことができる ようにするために、どの ように配慮されている か。	○穂先の向きや動き、点画のつな がりをイラストと「とん」「すう」「 ぴたっ」「すっ」などの擬態語、朱淡2 色の淡墨図や朱線で示し、穂先の 動きと点画を意識して書けるよう 配慮されている。 ○文字を四角で囲ったりカラーに したりするなどし、文字の大きさや 配列を視覚的に捉えやすくしてい る。	○穂先の向きや穂先の動き、点画 のつながりを「書き方のカギ」とし て朱線や青線、筆書きで示し、穂 先の動きと点画を意識して書ける よう配慮されている。文字の外形 や配列については赤線を用いて 示し、とらえやすくする工夫があ る。 ○一つの教材でも、複数の筆使い の写真を提示することで、数字や 文字での説明とあわせて視覚的 に課題を捉えられるように工夫し ている。	○穂先の向きや動き、点画のつな がりを「始筆」「送筆」「終筆」「止 め」「はね」などの言葉と、朱淡2色 の淡墨図や朱線で示し、穂先の動 きと点画を意識して書けるよう配 慮されている。文字の配列につい ては黒線、外形については着色に よって示し、とらえやすくする工夫 がある。 ○キャラクターの吹き出しを使って 筆の動きを表し、親しみやすくし ている。 ○「学びリンク」に毛筆動画を収録 することで、運筆や学習のポイント が視覚的に捉えられるようになって いる。	○穂先の動き、点画のつながりを 朱淡2色の淡墨図や朱線・青線で 示し、穂先の動きと点画を意識し て書けるよう配慮されている。文 字の配列については動物のイラスト、 外形については着色によって 示し、イメージしやすくする工夫が ある。 ○動画コンテンツでは、筆使いや 用具について様々な動画を収録 し、指導に活用できるようにしてい る。 ○筆圧を数字で示し、意識できる ように配慮されている。	○穂先の動き、点画のつながりを イラストと朱淡2色の淡墨図や朱 線で示し、穂先の動きと点画を意 識して書けるよう配慮されている。 文字の配列については黒線、文 字の外形については青線を用い て、とらえやすくする工夫がある。 ○筆使いは補助線や矢印で示し、 文字の大きさは点線で囲んで示す ことで、視覚的に捉えられるように している。

項目	観点	教科書名				
		新しい 書写(2・東書)	みんなと学ぶ 小学校書写(11・学図)	小学 書写(17・教出)	書写(38・光村)	小学書写(116・日文)
2 内容の程度及び取り扱いについて	(1) 自分の文字の課題を発見したり、学習したことを日常生活に生かしたりするために、教材には、どのような工夫が見られるか。	○「生活に広げよう」において、名前の書き方や振り返りの作文、ノートやメモ、リーフレット、ポスターの書き方など、国語や日常に活用できる教材を取り上げることで、身に付けた力を日常に生かす工夫がされている。 ○「見つけよう「確かめよう」「生かそう」という問題解決型の単元構成となっている。 ○ページ端の「書写のかぎ」をもとに、他の文字や他教科の学習に生かせるように課題の配置に工夫が見られる。 ○連絡帳や手紙、観察カードの書き方を示している。	○巻末資料で、縦書きと横書きなど、国語や算数に関連する教材を取り上げることで、身に付けた力を日常に生かす工夫がされている。 ○葉書や手紙の書き方や文字に関わる資料を通じて、自らのこれからの人生に必要な書字技能を的確に活用できるよう工夫されている。	○「レッツ・トライ」「書いて伝え合おう」のページでは、習得した書写の力を、教科横断的な学習活動や日常生活に活用できるようにしている。 ○悪い例も複数提示し解決策を考えさせることで、生活の中で生かせるようにしている。 ○算数のノート、メモ、年賀状、招待状、本の紹介	○横書きの書き方で、算数ノートや観察カードなど算数や生活に関連する教材を取り上げることで、身に付けた力を日常に生かす工夫がされている。 ○6年では、手紙の書き方や原稿用紙の使い方などは「書写ブック」としてまとめてあり、後々に利用しやすくなっている。 ○見本として良い例だけでなく様々な例を示すことで、課題を見つけ実際の生活で生かせるように工夫してる。 ○第2学年以上の全教材に、「たいせつ」を設け、他の字を書くときにも活用できる基礎・基本を明確に示している。 ○「学習の進め方」において、友達と書いたものについて話し合う活動を入れているので、自分で書いた文字の課題に気付く工夫が見られる。	○巻頭の見開きに「かんがえる」、「たしかめる」、「いかす」という教科書の使い方を掲載することで、自分の課題を発見したり、学習したことを日常生活に生かしたりする工夫が見られる。 ○「生活と書写」の中に、スピーチ原稿や年賀状など国語や日常に関連する教材を取り上げることで、身に付けた力を日常的に生かす工夫がされている。
	(2) 児童に用紙の規格、書式、筆記具について関心をもたせ、主体的な学習を促すために、どのような工夫が見られるか。	○鉛筆の持ち方を見開きで掲載するとともに、短い文を使って自分で持ち方の確認をさせる点に工夫が見られる。 ○「もじのいずみ」というページを設け、写真入りで鉛筆と消しゴムの作り方を紹介し、筆記具に関心を持たせる点に工夫が見られる。 ○1年生の「集めて使おう、書写のかぎ」2～6年生の「書写の学び方」等、児童自らが書写をどのように学ぶのか理解したうえで、見通しをもって学ぶことができるよう工夫されている。 ○「いろいろな道具をつかって書いてみよう」と水書用紙と筆の紹介が写真で載っている。巻末に水書用紙がついており、点画の書き方が確かめられるようになっている。 ○イラストを用いて、課題に取り組む際のポイントを書き込む欄を設け、各自が本時の課題を意識して主体的な学習に取り組める工夫が見られる。 ○学習の振り返りを「ふり返って話そう」とし、対話的な活動を取り入れた自己評価を行わせて主体的な学習を促している。	○児童が主体的に課題を発見できるよう、「確かめて書こう」で示す教材文字には、単元目標となる書き方は示さず、キャラクター達のセリフの中にヒントや着眼点の例を示す工夫が見られる。 ○様々な筆記用具(鉛筆、水筆、クレヨン、チョーク)を書いた文字とともに写真で紹介している。 ○学習の振り返りとして、その時間に学習したことを生かして書く課題を示し、主体的な学習を促している。	○鉛筆の持ち方を見開きで掲載するとともに、合言葉を使って児童自身に持ち方の確認させる点に工夫が見られる。 ○「筆記用具を選んで書こう」では、連絡帳や持ち物に名前を書く時の筆記用具を掲載しそれぞれの長所や短所を紹介している点に工夫が見られる。 ○子どもの発達段階に応じて「知りたい 文字の世界」では、文字の歴史などのテーマを設定している。 ○学習プロセスを明確化し、「どのように学ぶか」の見通しをもって学習に取り組めるようになっている。 ○子どもが自らの課題解決に向けて、主体的に取り組めるよう課題選択教材を設けている。 ○筆記具の種類及び線の違いについては、多くの例を取り上げている。用紙や目的等、選ぶ時のポイントも提示している。 ○学習の振り返りとして、その時間に学習したことを「◎」「○」「△」でふり返る活動を示し、主体的な学習を促している。	○「できているかな」で、鉛筆の持ち方を友達同士で確かめ、書き込むことで児童がお互いの持ち方の違いに気づき、正しい持ち方について、考えさせる点に工夫が見られる。 ○学習の振り返りとして、その時間に学習したことを「○」「△」等でふり返る活動を示し、主体的な学習を促している。 ○2年生以上では、「もっと知りたい」のコーナーがあり、筆記具やさまざまな書体に関する知識を増やそうとする工夫が見られる。 ○児童が見通しをもって学習できるよう、3年生以上の巻頭に「学習の進め方」が写真で視覚的に示されている。 ○「水ふでで書いてみよう」で線のはじめやおわりに気をつけて点や画を書くようになっている。 ○中学年及び高学年では、用具の扱い方や片付け方を丁寧に扱っている。	○鉛筆の持ち方を見開きで掲載するとともに、イラストで実物大の手を示し、児童自身に持ち方の確認させる点に工夫が見られる。 ○いろいろな筆記具として、鉛筆(B・2B・6B)、フェルトペン(太い・細い)の写真を掲載している点に工夫が見られる。 ○学習の振り返りとして、その時間の課題で達成できたらダルマに目を入れる振り返りを設け、主体的な学習を促している。 ○筆記具と実際の線及び文字が1ページを使って大きくカラーで表記されており、見やすい。 ○水書きシートを使って学習するページを示し、画のおわりや途中の書き方を練習できるようになっている。

項目	観点	教科書名				
		新しい 書写(2・東書)	みんなと学ぶ 小学校書写(11・学図)	小学 書写(17・教出)	書写(38・光村)	小学書写(116・日文)
	(3) 児童の発達段階や個に応じた指導に対応するための教材等については、どのような工夫が見られるか。	○学習のポイントを親しみやすいキャラクターイラストや擬音語で示している点に工夫が見られる。 ○左利きの児童でも書くときに教材文字が隠れないように、教材文字と書き込み欄を上下配置にしたり書き込み欄を左右両方に配置したりしている。また、左手の鉛筆の持ち方が写真で示されている。 ○筆順を間違えやすい文字については、全ての画数を数字で表したり点画の接し方を点線で強調したりしている。 ○最初に課題が提示されていて、考えながら書き進めることができる。「しょしゃのかぎ」でポイントを確認することができる。 ○「文字のいずみ」で言葉の学習ができるようになっている。	○硬筆の教材文字と書き込み欄を上下に配置することで、左利きの児童が練習できるよう工夫されている。 ○毛筆教材の手本には、全ての画に筆順番号を明記し、正しい筆順で書けるように配慮している。 ○「たしかめて書こう」「考えて書こう」「生かして書こう」の流れになっている。	○「ためしがき」「考える」「まとめ書き」「ふり返り」の流れになっている。 ○「すうっ」「ぴた」という擬態語が入っている。 ○硬筆・毛筆教材とも、それぞれの学年における児童の発達段階や語彙・言語環境などを考慮して、言葉としても適切で書写の学習要素が理解しやすい文字や語句を選んで教材化されている。 ○自分の課題に応じて「練習用紙の作り方」として、教材の上に半紙をのせ、鉛筆で筆字や文字の外形、始筆と字形を写し取って学習に取り組むことが提案されている。 ○「ここが大切」として、課題に取り組む際のポイントを示し、各自が本時の課題を意識して主体的な学習に取り組める工夫が見られる。 ○QRコードを使った動画コンテンツを資料としている点に工夫が見られる。	○「姿勢」「鉛筆の持ち方」「手の動かし方」などに、写真や補助線を加え、視覚的に捉えやすくする工夫が見られる。 ○QRコードやDVDを使った動画コンテンツを資料としている点に工夫が見られる。 ○見開き右ページに、動物のイラストを用いて字形を整えるポイントを示し、視覚に訴える工夫がなされている。 ○課題が示され、整った字を書くには、どうしたらよいか考えながら書くようになっている。 ○「たいせつ」でポイントがまとめられている。 ○低・中・高の各学年段階で求められる「書く力」を確実に身に付けられるよう、基礎的・基本的な知識・技能を系統的に位置づけ、習得と活用を繰り返しながら螺旋的に高められるような工夫が見られる。 ○1年生では「ぴたっ」「すうっ」「ぴょん」という擬態語と猫のキャラクターを示し、点画の書き方を楽しく覚えることができるよう配慮されている。	○イラストや吹き出しにより、字形の整え方や運筆をとらえやすくする工夫がなされている。 ○毛筆教材の手本には、全ての画に筆順番号を明記し、正しい筆順で書けるように配慮している。 ○「考える」「確かめる」「いかす」の流れで学習できるようになっている。 ○1年生は、「ぴたっ」「すうっ」という擬音語とキャラクターの動きを示し、点画の書き方を楽しく覚えることができるよう配慮されている。
3 構成・配列・分量	(1) 教材の構成・配列については、どのような特色があるか。	○单元ごとに「書写のかぎ」を置き、单元名にも学習事項を端的に示すことで、学習のねらいを明確化・焦点化している。 ○硬筆については、画の書き方→字の形→字のバランスという配列に特色がある。 ○6年では文字の歴史の解説の中で「行書」について触れられ、中学で学習すると説明されている。	○姿勢や鉛筆の持ち方の前に、「身の周りの文字を探そう」をイラストと言葉で掲載した点に特色が見られる。 ○思考力や表現力をはたらかせて取り組めるよう、「確かめて書こう」「考えて書こう」「生かして書こう」「ふり返ろう」の四部構成となっている。 ○前学年の既習事項を復習する内容が最初に設定されており、系統的な指導が展開できる。 ○画の書き方→字の形→画の組み合わせという配列に特色がある。 ○6年では発展学習として「行書」について触れられ、その大まかな特徴とともに中学で学習すると説明されている。	○姿勢や鉛筆の持ち方の前に、「学校の文字探検」を写真・イラスト・言葉で掲載した点に特色が見られる。 ○半紙に対する文字の位置をイメージでき、文字感覚を自然に育むことができるよう、右ページは教材文字と单元文字のみで構成している。 ○画の書き方→字の形という配列に特色がある。 ○6年では発展学習として「行書」について触れられ、その大まかな特徴とともに中学で学習すると説明されている。	○姿勢や鉛筆の持ち方の前に、「書写体操」を設けた点に特色が見られる。 ○6年では発展学習として「行書」について触れられ、その大まかな特徴とともに中学で学習すると説明されている。 ○線(点や画)の書き方→字の形という配列に特色がある。 ○1教材1目標とし、学習を通して身に付ける力を教材名としている。その教材で扱う要素を焦点化することで、学習のねらいが明確になり、効果的に力をつけられる配慮が見られる。	○姿勢や鉛筆の持ち方の前に、「文字をさがそう」のイラストを掲載した点に特色が見られる。 ○6年ではチャレンジとして「行書」について触れられ、大まかな特徴が説明されている。 ○形や筆順→画の書き方という配列に特色がある。
	(2) 硬筆・毛筆の配列・分量にはどのような特色があるか。	○硬筆文字から課題を見だし、毛筆練習で課題を確認後、硬筆練習で定着を図る構成に特色が見られる。 ○3年生以上では、硬筆文字から課題を共有し、毛筆で確認し、再度硬筆で別の文字を書くことで定着を図る展開となっている。 ○5年生は毛筆教材を8つ扱っており、適度な分量である。	○毛筆の学習の後に硬筆の学習がある。また、教科書に書き込み欄が豊富に設けてあり、毛筆の学習を生かして硬筆の学習が行えるようになっている。 ○毛筆文字から課題を見だし、毛筆練習で課題を確認後、硬筆練習で定着を図る構成に特色が見られる。 ●5年生は毛筆教材が6つであり、毛筆の分量はやや少なめである。	○硬筆教材を、毛筆の学習後に配列することで、毛筆の学習を硬筆に生かすことを実感できるようにした点に特色が見られる。 ○5年生では、毛筆教材を9つ扱っており、適度な分量である。 ○毛筆練習前後の硬筆文字による「ためし書き」と「まとめ書き」を比較できるようになっており、学習の成果が実感できるように配列されている点に特色が見られる。	○学習課題について考え、毛筆で確認後、硬筆練習で定着を図る構成に特色が見られる。 ○5年生では、11個の毛筆教材を扱っており、毛筆に親しむ機会を多く設定できる。 ○毛筆を硬筆の基礎として捉え、毛筆での学習を効果的に硬筆へ生かせるよう、毛筆学習の後には、教材内や「硬筆のまとめ」に必ず硬筆課題を設けている。	○学習課題について考え、毛筆で確認後、硬筆練習で定着を図る構成に特色が見られる。 ○5年生では、11個の毛筆教材を扱っており、毛筆に親しむ機会を多く設定できる。

項目	観点	教科書名				
		新しい 書写(2・東書)	みんなと学ぶ 小学校書写(11・学図)	小学 書写(17・教出)	書写(38・光村)	小学書写(116・日文)
4 表現・表記	(1) 文字の濃淡、写真、イラスト、用語の表記等についてはどのような工夫が見られるか。	○カラーユニバーサルデザインの観点から、配色・デザインについて全ページにわたって、専門家による検証を受けている点に工夫が見られる。 ○第3年生以上では、全ての毛筆教材に朱淡2色の淡墨図写真を使い、朱線で穂先の動きを示す工夫が見られる。 ○印刷は鮮明で、硬筆文字や毛筆文字が、印刷の濃度や色味を調整しており、より本物に近く、見やすいものとなっている。 ○ポイントとなる筆使いの部分については、カラーの墨と矢印、複数の筆の合成写真を使って拡大して提示している。 ○キャラクターが吹き出しで大切なポイントを示している。	○キャラクターが多く出てきて、大事なことを吹き出しで助言するなど、楽しく学習を進められるような工夫が見られる。 ○朱淡2色の淡墨図を使った連続写真や「かご書き」、「骨書き」により、筆使いのポイントを強調する工夫が見られる。 ○学習するポイントとなる字が太(フェルトペン)と細(鉛筆)の二種類で書いてある。 ○水ふでと水ふでで書いた文字が写真で載っており、水ふでのよさを紹介している。 ●イラストと吹き出しを用いて、学習上大切なことを訴える工夫がされているが、整理されていないような印象がある。	○書写の学習用語は「書写の言葉」として取り立てて扱ったり、書字のポイントを本文と書体を変えて赤の太字で示されたりしている。 ○ポイントとなる筆使いは、写真を拡大して見やすく提示している。 ○動物のキャラクターを使い、吹き出しに注意点を明記するなど親しみやすくしている。 ○「はってん」として、毛筆で書いた線と筆の写真が載っている。 ○穂先の向きや動き、点画のつながりを「始筆」「送筆」「終筆」「止め」「はね」などの言葉と、朱淡2色の淡墨図や朱線で示し、穂先の動きと点画を視覚的に示す工夫が見られる。	○文字や図表などに、複数の色を用いる場合に、全ての児童が明確に識別できる色の組み合わせに配慮している点に工夫が見られる。 ○穂先の動き、点画のつながりを朱淡2色の淡墨図や朱線・青線で、文字の配列については動物のイラスト、外形については着色によって示し、視覚的に示す工夫が見られる。 ○QRコードから学習の参考となるウェブページが参照できるようになっている。 ○空書きや点画シールの活用など体験的な学習を通して意欲を引き出し、直感的に理解できるようにしている。また、学習要素をイラストや図で示すことでイメージ化を図っている。 ○字の形や特徴を表す時にイラストを多く使っている。 ○水筆や水筆で書いている線を、写真で示されている。	○穂先の動き、点画のつながりをイラストと朱淡2色の淡墨図や朱線で、文字の配列については青線を用いて、視覚的に示す工夫が見られる。 ○動物のキャラクターを使ってめあてのヒントを表記するなど、児童の興味を高めている。 ○筆記具や文字に関する資料がカラー写真によりたくさん提示されている。 ○隣り合う色同士が識別しにくい場合には、色の明度を変えたり白い線を入れたりするなどの工夫が見られる。
	(2) 教材の字形・書体については、どのような工夫が見られるか。	○手書きの硬筆文字の字形や書き方に準拠し、国語・書写の学習に適した教科書体を独自に開発・使用している。 ○指書きからスタートしている。 ○字形を外形で示している。	○硬筆、毛筆ともに同一の書き手の文字であり、統一されている。 ○手本が薄墨で書かれ、画の重なりが分かるようになっている。 ○フェルトペンで書かれている文字は、はらいや入り、などが分かるようになっている。 ●お手本が、フェルトペンで書いたようでわかりにくい。	○手書き文字と近い形で学習できるユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ○お手本の文字が全体的に大きい。 ○はらいや画の方向は、筆で大きく示され、画のつき方や交わり方は、かご字で示すなど学習内容に応じて文字を変えている。	○単元名・教材名や「たいせつ」に、読みやすさと見やすさを追求したユニバーサルデザイン(UD)書体を用いているところに工夫が見られる。 ○授業においてポイントとなる字が筆でかかっている。お手本は、薄墨と朱墨で書かれており、画の重なりがよくわかる。 ○毛筆文字・硬筆文字・教科書体活字の字体の整合性がとれてる工夫が見られる。	○色分け、補助線、矢印の形状や太さなどで、字形の情報を示している。 ○フェルトペンで書いたお手本が多い。 ●いかす段階で扱われている手書き文字の字形に違和感がある。

項目	観点	教科書名				
		新しい 書写(2・東書)	みんなと学ぶ 小学校書写(11・学図)	小学 書写(17・教出)	書写(38・光村)	小学書写(116・日文)
5 体裁・使用上の便宜	装丁や使用上の便宜等 についてはどのような工夫が見られるか。	○水書用紙は、ピンク。長方形。 ○字ではなく、いろいろな線を書く ことになっている。 ○毛筆教材部分は半紙の縦横比 率に合わせている。そのため、実 際の半紙に書いた手本に近い配 列になっている。 ○教科書の左側に「書写のかぎ」 インデックスをつけ、単元の学習 事項と関連する既習事項が一目 で分かり常に意識できる工夫がさ れている。 ●大きさが変形版(AB判)のた め、机上で扱いにくい。	○中綴じのため、教科書が開きや すく、見開き2ページの形で掲載さ れているものがある。 ○半紙原寸大の教材が手本とし て入っているので、使いやすい。 ○書き込み欄が豊富にあり、書い て確かめることができる。 ○5年生では、巻末に都道府県名 やローマ字、ポスター等豊富な資 料があり、他教科での学習にも生 かすことができる。 ○綴じ方に安全面での配慮があ る。 ○毛筆の手本が見開きで掲載さ れているものがあり(すべてではな い)、実際の大きさとしてとらえや すい。 ●毛筆の手本が見開きで掲載さ れているものがあり(すべてではな い)、大きさゆえ扱いに困る場面が 考えられる。 ●全体的に字の大きさが小さい。 ●紙質がやや白すぎる。	○水書用紙は、薄緑。長方形。 ○裏表紙に、全学年「鉛筆の持ち 方」の絵が掲載され、子ども自ら が持ち方を確認できるように工夫 されている。 ○B5判で、多色刷りで全体的に 鮮やかな色調により、教材や解説 が強調されるよう配慮されている。 ○右ページに教材文字を、左ペー ジに文字や写真、記号等によるポ イントを詳しく示し、「見開き完結 型」の紙面構成となっている。 ○シール付き。大事なところや気 をつけたいところにはったり、名前 を書いたりするシール) ○書き込み欄が多く、そのまま ノートのように使用できる。 ●水書シートにはすでに平仮名 「く」「つ」、カタカナ「ノ」、イラスト が右隅に薄く書いてあり、練習し にくい。	○水書シートは、薄い灰色で折り 紙大。ノートのマスを意識した作り になっているところに配慮が見ら れる。 ○教科書の真ん中に「書写ブック」 が挟まれており、後々外して利用 できるようになっている。 ○B5判で、統一感のある明瞭な 色使いの印刷により、学習のポイ ントに注目できるよう配慮されてい る。 ○強度が強く、鉛筆で書きやすい 紙を採用。文字やイラスト、写真が 見やすく、裏移りの少ない紙質で ある。 ○巻末に、当該学年と前学年で 習った漢字、ローマ字、都道府県 漢字等があり、他教科との関連を 図った指導ができる。 ○環境への配慮から、再生紙・植 物性インキを用いている。 ○鮮明で正確な色調で印刷してい る。 ○表紙には、防水効果があって汚 れにくい、撥水コーティング加工が 施されている。	○水書シートは、薄い灰色で、B5 版。 ○シートが厚紙に貼ってあり、丈 夫。 ○教科書への書き込み欄を手本 文字の下に配置し、右利きでも左 利きでも手本を見ながら書けるよ うにレイアウトが工夫されている。 ○巻末に、当該学年と前学年で 習った漢字一覧をつけている。 ○水書きシートがついている。